

参考資料

株式会社はこだて西部まちづく **Re-Design**

ウェブサイト等での情報発信

<https://h-we-r.com/>

令和4年11月18日

函館西部地区ニュース

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design では、YouTube チャンネル「藤本恭子のココバナ『はこだて channel』」で函館の話題を発信しているフリーアナウンサー藤本恭子さんと函館市西部まちぐらしデザイン室の協力をいただき、函館西部地区のホットな情報を様々な角度から発信する「函館西部地区ニュース」の放送を開始しております。

函館西部地区で活躍する「人」にフォーカスを当てながら、様々な活動やイベント、日常の風景等を発信していきます。

基本的には毎週土曜日の午後 8 時に更新します。ぜひご視聴・チャンネル登録よろしくお願いたします。



(アドレス)

● <https://www.youtube.com/channel/UC2tYFj91Lp7ox6AmVeXw21Q>

(これまでの配信)

- 2022年11月12日配信 Vo128 STREETのおくの広場計画
- 2022年11月5日配信 Vo127 この半年を振り返って
- 2022年10月29日配信 Vo126 第3回函館西部地区まちぐらし共創サロン
弘前大学特任教授/北原啓司さんインタビュー
- 2022年10月22日配信 Vo125 第3回まちぐらし共創サロン
カフェやまじょう 店主 太田誠一さん
- 2022年10月15日配信 Vo124 函館カレーフェス
- 2022年10月8日配信 Vo123 函館麦酒醸造所 oziqi 代表 石垣充清さん

- 2022年10月1日配信 Vol122 函館公園こどものくに マネージャー 加藤大地さん
- 2022年9月24日配信 Vol121 トークイベント「アーティスインレジデンス @函館西部地区」
- 2022年9月17日配信 Vol120 第2回まちぐらし共創サロン
- 2022年9月10日配信 Vol119 令和4年函館伝統建築技術研修会
- 2022年9月3日配信 Vol118 黒船サーカス 2022/弥生町納涼祭
- 2022年8月27日配信 Vol117 Jolly Jellyfish 元町公園店 店長 岡村直美さん
- 2022年8月20日配信 Vol116 第1回まちぐらし共創サロン_インタビュー編
- 2022年8月13日配信 Vol115 「CRAFT BASE モノクラ」函館モノクラフトマーケット 代表 千葉 建介さん
- 2022年8月6日配信 Vol114 第1回まちぐらし共創サロン
- 2022年7月30日配信 Vol113 元町マーケット
- 2022年7月23日配信 Vol112 函館市地域交流まちづくりセンター 谷口真貴さん
- 2022年7月16日配信 Vol111 ライオンのサム喫茶&BAR とビリヤード 代表 高橋 達さん
- 2022年7月9日配信 Vol110 株式会社五島軒代表取締役社長/若山豪さん(後編)
- 2022年7月2日配信 Vol19 株式会社五島軒代表取締役社長/若山豪さん(前編)
- 2022年6月25日配信 Vol18 カフェ&ハンドジュエリー「Bijoux」 福井敏博さん、吉田幹子さん
- 2022年6月18日配信 Vol17 バーガーサービス ウォールデン代表 米原久佳さん
- 2022年6月11日配信 Vol16 Specialty Coffee COCORO 代表 浅水心吾さん
- 2022年6月4日配信 Vol15 シェスタ統括責任者・青柳町会副会長 岡本啓吾さん
- 2022年5月28日配信 Vol14 函館西部地区ブロックパーティー②
- 2022年5月21日配信 Vol13 函館西部地区ブロックパーティー①
- 2022年5月14日配信 Vol12 ファーストフラッシュ 代表取締役 小林 一輝さん
- 2022年5月7日配信 Vol11 はこだて西部まちづく Re-Design 代表取締役 北山 拓

地域情報

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design のウェブサイト内に西部地区の地域情報として、「暮らしをテーマ（西部地区の暮らし）、（西部地区のまちぐらし）、（西部地区への移住）、（西部地区での起業）」とした地域の皆様の声を掲載しているところがございます。

（これまでの掲載）

- 2022.11.13 西部地区のまちぐらし
西部地区で働く Jolly Jellyfish 元町公園店 高田 俊
- 2022.10.04 西部地区への移住
心地よい街・函館 北海道坂本龍馬記念館 事務局長 柳田 善徳
- 2022.09.28 西部地区の暮らし
魅力あふれる 西部地区弥生町 弥生町会 副会長 熊谷 光昭
- 2022.09.20 西部地区のまちぐらし
西部地区がだいすき！ こどものくに マネジャー 加藤 大地
- 2022.09.08 西部地区の暮らし
新生 弥生町会 弥生町会 会長 石田 亮介
- 2022.08.23 西部地区のまちぐらし
不便の中で生まれるもの 函館「荘」プロジェクト わらじ荘 荘民 三浦 透眞
- 2022.08.02 西部地区のまちぐらし
街プロを通じて NPO 法人はこだて街なかプロジェクト 稲野辺 豊
- 2022.07.04 西部地区のまちぐらし
西部地区の街を楽しむ「まちあるき」 函館まちあるきガイド 土田 尚史
- 2022.06.28 西部地区での起業
モノ作りの可能性を信じて 函館モノクラフトマーケット 代表 千葉 建介
- 2022.06.10 西部地区のまちぐらし
新たなまち暮らしを求め 入舟町在住 松村 幸司朗・聡子
- 2022.06.03 西部地区への移住
夢にまで見た函館 豊川町在住 吉田 幹子
- 2022.05.27 西部地区の暮らし
28年間気づかず 38歳で見つけた新たな“函館” 宝来町在住 ショウ 紫
- 2022.05.17 西部地区の暮らし
西部地区の風景と生活 青柳町会 副会長 岡本 啓吾

- 2022.05.02 西部地区での起業
街を愛し、愛されるお店として バーガーサービス ウォールデン 代表 米原 久佳
- 2022.04.26 西部地区での起業
函館の原風景 Specialty Coffee COCORO 代表・焙煎士 浅水 心吾
- 2021.08.25 西部地区のまちぐらし
海と坂と、見えない何か 函館「荘」プロジェクト 代表 下沢 杏奈
- 2021.08.25 西部地区への移住
何もない？謙遜かな？そんな函館だってええやん！
NPO法人NPOサポートはこだて 谷口 真貴
- 2021.08.18 西部地区での起業
何度でも訪れたい街・住みたい街函館を目指すこと
函館観光・民泊推進協会 代表理事 高田 鮎子
- 2021.08.17 西部地区の暮らし
西部地区で取り戻した「自分で暮らしを作る実感」
フリーランスライター 阿部 光平

【西部地区のまちぐらし・西部地区で働く】



Jolly Jellyfish 元町公園店 高田 俊

私は、函館で生まれ育ち 30 歳を過ぎる迄ずっと函館で暮らしていました。

若いころは、函館には“遊ぶ所が無い”、買い物一つとっても“流行りの物が売っていない”、“やりたい仕事がない”など全て環境のせいにしていました。

それなら函館を出たら良いのでは？という気持ちを持ちつつも、住み慣れた町から出る勇気も中々湧いて来ず、30 歳位まで函館から出ないで過ごしていました。

その頃の自分を振り返ると、全くと言っていいほど函館の魅力を知ろうともしていませんでしたし、気付いてもいませんでした。

そんな自分を変えるきっかけとなったのが、函館で毎年行われている地域活性をする為のイベント「函館黒船」のボランティアスタッフに参加した時の事でした。

その時に、「函館黒船地域活性化協議会」の会長を務める小林一輝さん（私が現在勤めている「株式会社 FirstFLASH」の代表取締役社長）に出会ったのですが、この出会いが自分を大きく変えました。

現在、私は函館西部地区の元町公園にある旧北海道庁函館支庁庁舎をリノベーションしたカフェ&レストラン JollyJellyfish 元町公園店にて副店長として勤務しています。地域に根付いたイベントを主催する会社で働いた事で、それぞれのフィールドの中で町を活性化させる為に一生懸命に活動する人達との出会いや、今まで自身が知ろうとしていなかった函館の歴史を学ぶ機会があったりと、私の価値観や考えを大きく変えてくれました。函館の魅力でもある異国情緒あふれる街並みを日々感じ、四季折々の函館の良さを感じることが出来る職場環境です。

私自身は、一度函館の町を離れ、また函館の町に帰ってきた人間ですが、今ではこの町に住んでいる事にとっても幸せを感じています。

そんな、素敵な町である函館の魅力を観光のお客様には勿論のこと、函館の仲間達にも伝えていきたいと思えます。

函館に住む人には“函館がもっと好きになった”と思って貰いたいですし、観光で訪れる方には“また函館に行きたい”と思って貰いたいと考えています。

その為にも私自身もより函館の魅力を学び、伝えていく事で【函館のファン】を1人でも多く増やしていきたいと思っております。

【西部地区への移住・西部地区で働く】



北海道坂本龍馬記念館 事務局長 柳田 善徳

北海道坂本龍馬記念館の前館長に声をかけていただいた縁で、2017年4月から函館西部地区での生活が始まりました。私にとって西部地区最大の魅力は、そこかしこに歴史（特に幕末維新期）を感じられること。函館の発展、北海道の発展の原点が詰まっていて、酸いも甘いも知り尽くした街の風情が、何とも心地よい。

「たとえ一人でも蝦夷地に新しい国を開く」という夢を持ち続けた坂本龍馬は、暗殺されていなければ、間違いなくこの函館に足を踏み入れたことでしょう。まさに幕末は新しい函館、新しい北海道への転換点、もし龍馬が来ていたら、自ら結成した海援隊を駆使して、活気ある街づくりに貢献し、夢への一步を踏み出したはずです。

残念ながらそれは叶わなかったのですが、函館で龍馬の足跡を辿ることはできません。しかし、函館（特に西部地区）には、龍馬の一族や縁のある人々が多く訪れていますので、実は様々な場所で龍馬の息遣いを感じることができるのです。これも心地よさのひとつ。

約30年前に初めて函館を訪れた時、将来ここに住むことになるとは思っていませんでした。当時と比べると、街の様子は大きく変わったと実感します。今では富山市、長崎市、そして釧路市と並ぶ、私の好きな心地よい街のひとつになっているので、「住めば都」です。縁あって移り住んだ函館、その魅力をこれからもっと発見して、多くの人に伝えていこうと思います。

【西部地区の暮らし・魅力あふれる 西部地区弥生町】



※写真左

弥生町会 副会長 熊谷 光昭

私は西部地区弥生町で生まれ育ちました。この異国情緒あふれる西部地区は函館山や海に囲まれ春夏秋冬で変化する風景もまた魅力的です。

私の一番のおすすめは、6月～8月頃、夕日の中をイカ釣り漁船が出航していく風景です。見ていると心が洗われるというか、いつまでも綺麗な夕焼けを見ていたい気持ちになり、幼いころに穴間海岸やうさぎ浜で遊んだ記憶が蘇ります。

私の母校の西小学校・西中学校は廃校となり、公園で遊んでいる子ども達の笑い声もあまり聞かなくなりました。

この度、弥生町会のお手伝いをさせて頂くこととなり、平均年齢43歳の若い役員7名で弥生町会を盛り上げています。毎月第一土曜日に茶話会を開催し、ご年配の方から若者まで幅広い年齢層の方々に町会へ足を運んで頂いております。現代では薄れてきているご近所さんとのコミュニケーションを大切にしています。開始から笑い声が絶えず大満足してお帰りになる皆さんを見ていると、これこそが西部地区の良さと感じました。若者にも弥生町会の魅力、西部地区の魅力を知ってもらいたいと思い、弥生町会「Instagram」を開設しました。

そして、西部地区に住んでみたいと思えるような魅力あふれる弥生町、西部地区を目指し、少しでも昔の活気が戻ればと思います。

誰かに住む街聞かれたら、「はい」西部地区と答えます・明るく胸はり答えます。親子みんなが住みついて、いのちかけたい海の街、そんな街ですそんな街です。

どうぞ宜しくお願い致します。

【西部地区のまちぐらし・西部地区がだいすき！】



こどものくに マネジャー 加藤 大地

初めまして。函館にある小さな遊園地、函館公園「こどものくに」の加藤大地です。

中学校と高校は地元の函館から離れて京都に住んでいましたが、社会人になってから函館に戻って家業である「こどものくに」で働いています。

西部地区で働き始めてまず始めに感じたのが常連さんがとても多いという事です。

「いつもありがとうございます」と声をかけると「今日は初めてメリーゴーランドに乗れたんです」と嬉しそうに話をしてくれるお母さん。自分も小さい頃に遊んだと話してくれるおじいちゃん。初めての遊園地に目をキラキラさせる男の子。子どもの頃に乘った観覧車にお孫さんと乗りに来てくれたおばあちゃん。

働いていてこれほど嬉しい瞬間があるのでしょうか。これからも「こどものくに」を守っていきたいという気持ちになり、日々の暮らしの中にも歴史を感じるこの瞬間が、私が西部地区で働き続ける理由の1つだと思っています。

仕事が終わると、今週はなんのイベントが開催されるのかな？今日は新しいお店を開拓してみようかな？とわくわく。函館で行われるイベントの大半が西部地区で開催されますし、まだまだ行ったことがない素敵なお店がたくさんあります。

観光客が道を歩きながら函館の良いところを話していることもあるので、西部地区に住んでいる自分に少し優越感を覚えながら家に帰ります。

函館が好きです。西部地区が大好きです！

私が「こどものくに」を守り続ける事で、この素敵な 1日がこれからも続き、さらに魅力的な西部地区を作る一助になるととても嬉しいです。

皆さんぜひ函館にお越しく下さい。そして西部地区の雰囲気を感じてみてください。

【西部地区の暮らし・新生弥生町会】



弥生町会 会長 石田 亮介

令和4年4月27日の弥生町会総会で町会長となりました石田亮介（写真左から二人目）です。これまでの4ヵ月間、不慣れな作業が沢山ありましたが、他の役員、班長、町会員の皆様に助けられながら何とかここまで来ました。この4ヵ月で感じることは多くありますが、何とんでも自分一人で町会を運営するのは到底無理ということです。頻繁に郵送されてくる書類の処理、各種申請作業に必要な書式作成や届け出。各団体との連絡や会議等への出席。特に平日の日中の会議への出席は中々厳しいものがあります。何とか仕事の休みを調整して対応しなければなりません。

大変なことも多々ありますが、それ以上に嬉しいことも沢山ありました。月に1回開催している茶話会では予想以上の皆さんにお集まり頂き、いつも色々な談話で盛り上がります。また、6月には転倒予防講座を、7月には夏休み恒例のラジオ体操を実施し、これまた予想以上の方に参加して頂きました。そして8月21日には好天の中、納涼祭が行われ、味噌おでん、焼き鳥、かき氷、ドリンク、野菜販売など大盛況に終えることができました。町会役員だけでなく、お手伝い頂いた町会の皆様、ご来場頂いた皆さんに改めて感謝致します。ありがとうございました。

さて、「地域包括ケアシステム」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。2025年問題乗り越えるための国の施策です。簡単に言うと「おとなりどうしで助け合いましょう、そして障がい者も高齢者も住み慣れた町で安心して暮らしましょう」という概念です。町内会活動の活性化はまさに地域包括ケアシステム構築の一翼を担うものと実感しています。弥生町会だけでなく、各町内会がより元気に活動できるよう期待するところです。

まだまだ不慣れで困惑することが多いですが、多くの方々に助けられながら町会を運営していこうと思います。どうぞこれからも宜しくお願いします。

【西部地区のまちぐらし・不便の中で生まれるもの】



函館「荘」プロジェクト わらじ荘 荘民 三浦 透眞

3年前、私を含む大学生3人で弁天町にある1軒の空き家を借りて共同生活を始めた。その後、住民は増えたり減ったりを繰り返しながらも、今では西部地区を拠点として10名の若者が3つの家に分かれて共同生活を営んでいる。

もちろん、当の私も弁天町にある「わらじ荘（旧野口梅吉商店）」を拠点として今現在も西部地区で暮らしている。

でも、暮らしている身として、正直に言うと、大学生の私にとっては西部地区に住むというのは決して楽なことではない。

大学に毎日自転車を通うことはすごく大変なことだ。娯楽施設だって少ない。ましてや私たちが暮らすのは古民家。夏はとろけるほど暑くて、冬は外の方が暖かいくらいだ。

ただ、それでも私は大学を卒業するまで、西部地区で住み続けたいと思っている。

それは、この街、この家には「人と人の繋がり」という素晴らしい魅力があるから。

例えば顔見知りの近所の人と学校に行く時に少し話したり、町会の活動に参加してみたり。ごく当たり前のことかも知れないけれど、少なくとも私は大学の近くに住んでいた頃はこの魅力を感じることができなかつたし、この魅力は小さくて少し不便な街だからこそ生まれるものではないかと思っている。

現に、私たちが弁天町で行なっている「スマイルクラブ（放課後に大学生と地域の子どもが交流する活動）」もきっと人と人の繋がりがなければ継続してできていなかっただろう。私たちが暮らす古民家も然りだ。

築100年を越えたこの空き家が生む不便さが、私たちの住民同士の繋がりを生み、家族のような関係を築くきっかけを与えてくれていると感じている。

これからこの西部地区という街に、どんな同世代の若者がやってきてくれるのだろう。

この街、この古民家で共に暮らせることを楽しみにして待っていたい。

【西部地区のまちぐらし・街プロを通じて】



NPO 法人はこだて街なかプロジェクト 稲野辺 豊

NPO 法人はこだて街なかプロジェクト（以後：街プロ）に参加したのは5年前だったと思います。西部地区で暮らしているから参加したというわけではなく、理事長の山内一男氏（建築企画 山内事務所 所長）と縁があり、理事長の会社で働かせてもらっているのがきっかけです。そのため、自然な成り行きで参加しています。自分が住んでいる街について学べるというのは、他ではあまりないことだと思うので参加できて本当に良かったと感じています。まだ知らないことも沢山ありますが、街プロに参加していなかったら、西部地区の魅力を何も知らないままだったと思います。

街プロは西部地区に関することでのいろいろな活動をしており、私もできる限り参加し、勉強させてもらっております。歴史的建造物（伝統的建造物や景観形成指定建築物）の調査や、函館伝統的建築技術研修会にスタッフとして参加してお手伝いをさせてもらっております。

歴史的建造物の調査では毎年5～10件ほどの調査を行っており、各物件でリーダーを決め、参加できる会員の皆で調査を行っております。西部地区に住んではいるものの、建物を意識して生活してこなかったのが、こんな素敵な建物があるのだと改めて驚くこともあります。

函館伝統的建築技術研修会では、職人さんと一緒に貴重な講演を聴講したり、職人さんの実技研修を見学させてもらうことで職人さんのすごさを実感しています。街プロのホームページに研修会の写真等を載せているので、時間があれば是非閲覧してみてください。街プロに参加してからは、休日に西部地区を散歩することがあるのですが、坂の上からの景色や街並みを見ると、改めて最高だなと感じています。歩いていると、もっと面白いことができないかと思うものの、何も浮かばず行動できておりません。これからは、いろんな街に赴き経験し、いずれは面白いことができればと考えております。

【西部地区のまちぐらし・西部地区の街を楽しむ「まちあるき」】



函館まちあるきガイド 土田 尚史

2010年、函館市観光部主催の講座を通じて、まちあるきガイドになりました。私は生まれも育ちも「函館・西部地区」。函館の街の魅力と、「この街が好きだ」という自分の思いはあるものの、まずは街のことを知らねば、前には進まない！と感じ、直感で受講。あれよあれよと10年以上ガイドをしています。

西部地区は、日本でも、いや、世界でも個性がある街だと常々思っています。歩くたびに、街に対する奥深さを感じ、新たな発見が見つかる。歩かなければ見つからないことも多々。宝の山が、まだまだ埋まっているかもしれないと考えると、ワクワクが止まりません。この個性や宝の山を、より彫り上げていき、魅力を高め、磨き上げていく。街歩きを通じて、その繰り返しを行うと、西部地区にしかない、モノ、コト、ヒトに出会い、唯一無二、オンリーワンの街だと気づくかたが、より増えると思います。

私のまちあるきガイドでは「街が舞台、お客様がキャスト、そしてガイドは裏方。歩くお客様が主人公になって楽しんでもらうこと」を念頭に置き、街の歴史や文化を知るだけでなく、街そのものに飛び込んでもらい、ちょっと見かたを変えてみる、楽しみかたを変えてみるなど、色々な視点で楽しむことを仕掛けています。もし西部地区でガイドをしている私の姿を見かけましたら、遠慮なく声をかけてください。

【西部地区での起業・モノ作りの可能性を信じて】



函館モノクラフトマーケット 代表 千葉 建介

2022年7月16日に体験型複合施設「CRAFT BASE モノクラ」が、函館市末広町にある伝統的建造物内にオープンします。函館観光の中心・西部地区にある伝統的建造物の中で様々な体験をすることで、函館色を感じながら思い出作りを楽しんで頂けるものと考えております。

これまで、イベントでしか体験できなかったメニューを、地元の方は気軽にいつでも作られるようになります。そのことにとどまらず、地元の方には西部地区の魅力を再発見してもらおうきっかけとなることを期待しています。

このような施設を作るきっかけになったのは、市内公共施設や商業施設においてモノ作りを中心とした体験イベント「函館モノクラフトマーケット」（通称モノクラ）を2014年から展開していることです。このイベントは自主開催以外にも学校の課外活動や市町村、企業のイベントでの依頼で実施しています。

最近では修学旅行での体験学習や企業の研修にもモノ作りの依頼が増えていきます。そこで得た実感は「モノ作りは思い出作り」ということです。作った作品への思いだけではなく、仲間や家族、同僚とモノ作りに費やした時間も宝物になっています。

そのような体験をする方々と接する機会が増える度に、函館を訪れる多くの観光客の方にもモノ作りを通じて、カタチに残る函館の楽しい思い出を増やして欲しいと思う気持ち

が強くなったことから施設を作ることを決意いたしました。

私たちは、1 店舗で多くのコンテンツを選べるプログラムを有した施設作りを目指しています。8 年間で繋がった多くの作家さんの協力のもと、モノ作り以外にも癒しや着付け体験などの多くのプログラムの展開を考えております。魅力あふれる大好きな街・函館西部地区に、観光の方、そして地元の方に多くの笑顔が生まれ、思い出の発信基地（BASE）と成り、モノ作りが函館の観光の一翼に成長していくことを信じています。

【西部地区のまちぐらし・新たなまち暮らしを求め】



入舟町在住 松村 幸司朗・聡子

帯広から札幌、札幌から函館に来て早 22 年、妻の聡子の実家が住吉町ということもあり、函館で暮らすなら西部地区と決め、現在は入舟町に住んでおります。

私たちの仕事は、松風町（大門地区）で豚井ポルコという豚井店を営むことです。全国の百貨店等で定期的開催される北海道物産展等にも出店しております。

住むから暮らしへの転換。西部地区の景観・景色は勿論、教会の鐘の音や海の音、音のある風景もまた西部地区ならではの贅沢な暮らしかなと。窓を開けると都会では味わえない非日常的な景色、函館山も季節によって様々な姿を見せてくれます。なんて贅沢な日常なんだろうと。また、地域住民とも程よい距離感が何とも良い。

まちは住んでいる人こそ主役。住みたい・暮らしたいまちは、誰かがつくるのではなく、自分たちの手でその光景をつくるものだと考えております。

以前、オガール紫波（岩手県）の岡崎正信さんがお話ししていたとおり、民間のアイデアと行政・まちづくり会社が一体となることが重要だと考えております。まちの賑わう仕組み、そこからまち全体に経済活動が波及する仕組みづくりが必要です。

近々、入舟町から青柳町へと引っ越し（地域内）する予定です。新たな青柳町での暮らしを楽しみつつも、私も民間の一人として微力ながら函館西部地区のまち暮らしを盛り上げていきたい。

函館西部地区、私たちにとって何とも言えないザラザラ感がある自慢のまちです。

【西部地区への移住・夢にまで見た函館】



豊川町在住 吉田 幹子

18年前から時々訪れていた函館、不思議と我が家のアルバムの中には、金森赤レンガ倉庫の黒猫ちゃん、函館駅前のイカポストなど数々の写真。

路面電車、特に「ササラ電車」、空には、かもめの鳴き声など函館ならではの音も心地よく、日々変わる函館山の景色にも何度も訪れるうちに魅了されます。

また、何より函館の方々がものすごく温かく、人とのつながりも重視しておりましたので、「ここしかない」と直感。温かい雰囲気の人と笑顔の素敵な人が多い地域、このような景色や函館スタイルに引き込まれ、この度、埼玉から移住し、西部地区で2022年5月3日に自宅兼店舗「ハンドメイドジュエリー&カフェ・Bijoux」をオープンいたしました。

店名「Bijoux」は、フランス語で「宝石」という意味。おすすめはフランスの揚げ菓子「ベニエ」、パウダーシュガーをまぶして、チョコレートソースやハチミツ、アイスクリームなどディップして食べるお菓子です。

オーナーの特製「ハンドドリップコーヒー」と店長おすすめ「キーマカレー」、クリスタルビーズ「スワロフスキー」を使用したジュエリーを作っております。

これからも函館の町をもっともっと楽しみ、自分たちの生活の幅を広げながら、皆様とお会い・対話できる日を楽しみにしております。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りくださいませ。

【西部地区のまち暮らし・

28年間気づかず 38歳で見つけた新たな“函館”】



宝来町在住 ショウ 紫

生まれも育ちも函館。28歳でカナダへ単身留学し、3年後現地で結婚。旅立ちから10年後の2017年秋、ここ函館へ主人と娘3人で移住してまいりました。幼い頃から市内だけで8度の引っ越しを経験しておりますが、この西部地区に移り住んだのは今回が初めてとなります。

壮大な自然と常に隣り合わせのカナダで約5年間子育てをした私たちにとって、この西部地区での暮らしは意図せず理想的な環境でした。

朝、目覚めて見上げるとそこには四季毎に違う顔を見せてくれる函館山。そして、海のない街で育った娘の手を引き、散歩する海岸沿い、レトロさと自然を大切に残す広々とした公園。

移住してからのこの4年半は娘のPTA活動や、函館の姉妹都市ハリファクス市(カナダ)との友好協会活動、主人と作り上げたオリジナルキャラクターでのイベント活動、道南木材と日本古来の焼杉技法に魅せられ始めた木工品制作など、とにかく様々な挑戦を通して、日々人との触れ合いや家族の時間を大切に生活しております。

ここだからこそ味わえる暮らしの豊かさや人との繋がりは、異国を離れて生活すると決めてくれた主人や娘にとっても、こうしてまた地元に戻って生活できるとは思ってもみなかった私にとってもかけがえのない時間であり、私達家族の第二章です。

Live for the moment!

【西部地区の暮らし・西部地区の風景と生活】



青柳町会 副会長 岡本 啓吾

18歳の頃の私は、生まれ育った函館を出たくて仕方が無かった。

家も学校もこの街も、なんだか息苦しく感じて、明るい未来が思い描けなくて、都会に憧れてとにかく飛び出したかった。

そんなこんなで8年ほどの東京生活は刺激的ではあったけれど、ふとした時に故郷を思うと、段々と物足りなさを感じるようになった。

目的もなく海を見に行ったり、函館山にはよく歩いて登った。

おじいちゃんがいつも連れて行ってくれた西部地区の街並みや家屋やお店や人。

坂を昇り降りすると背景にある函館山が立体的に見えてワクワクするあの感じ。

住吉の海から朝日があがり、入舟の海に夕日が沈む、一日のはじまりとおわりの壮大さ。

函館の空の青色はなんだか他とは違って見えて、どこか儂さと優しさを感じる。

当たり前だった函館の風景や生活が実はとても豊かだったことに、外に出てから初めて気づく。そして無性に愛おしくなった。

10年前に函館に帰ってきて、家族ができて、一生をここで生きるなら西部地区に住みたいと思うようになった。

いずれ子どもが大きくなったら自分のように外に出ていきたいと言うかもしれない。

それでも西部地区で過ごした日常は代えがたいものだし、函館のことをきっといつか愛おしく思ってくれるはず。

風景と思い出がリンクする、そんな西部地区での生活をこれからも大事に過ごしていきたい。

【西部地区での起業・街を愛し、愛されるお店として】



バーガーサービス ウォールデン 代表 米原 久佳

西部地区がもつ、どこかスローな時の流れは、とても心地よく、なんとなく急かされる他の街とは違っていました。

そこに観光地としてだけではない、新たな可能性がありました。

レトロな街並み、電車道路沿いに佇むこのダイナーは、ベーコンやケチャップなどは自家製に拘り、炭火焼ハンバーガーが楽しめるお店。

窓越しに通る電車を眺めながら、食事をゆっくりと楽しむ時間は、まさに西部地区が醸し出す雰囲気ならでは。

函館出身の私は、社会人生活は他の地で過ごしていました。

高校生の頃、西部地区の親友の家に遊びに行くときはワクワクしていました。

そしてその気持ちは、いまでも変わっていませんでした。

函館の人々も同じ気持ちを持っていると、私は思っています。そんな函館人が愛する西部地区で、街の魅力とハンバーガーを楽しんで貰いたい。今では西部地区で不動産業を営むその親友に相談し、お店をオープン。

お客様の多くは函館の方で、そんなワクワクでご来店しているんじゃないかなと思って、ハンバーガーを焼いています。飲食店は、その地域を知る上でわかりやすくオープンな存在。ハンバーガーをきっかけに、西部地区の魅力をもっともっと感じてもらいたいと思っています。

【西部地区での起業・函館の原風景】



Specialty Coffee COCORO 代表・焙煎士 浅水 心吾

北海道最古といわれるアーケード。

十字街に残るその古いアーケードの下に、私が「Specialty Coffee COCORO」を開業したのは2021年6月のこと。

道南随一、北海道内でも数店しか使用することが許されていない世界最高級の生豆を使った自家焙煎珈琲豆専門店である。

このレトロな街並みに、外から店の奥まで丸見えのひとときわ明るい店構えとしたのは、お客様により安心して気軽にご利用いただきたいから。

「世界最高級の珈琲豆専門店」なんてうたい文句は、自分で考えても堅苦しくて、敷居が高い。

でも、本当に美味しいコーヒーをより多くの皆様に気軽楽しんでいただきたい。そんな思いから、このような店構えになった。

西部地区は函館市民の中でも観光地としてのイメージが強く、住宅地が広がる東部の方からは足が遠い。でも、実際は車で20分程度。街がコンパクトなのは、函館の長所だ。

私が育ったのは、JR五稜郭駅周辺。西部地区には縁がないように思われるが、小・中学生の頃、谷地頭電停から山を少し登ったところにある「臥牛牧舎」で10年近くボーイスカウトに通い、その活動を通して函館山も西部地区も庭みたいに駆け回っていたものだ。

市内の高校を卒業後、大学・会社員とおおよそ28年間も函館を離れていた。その間、いろいろな方と函館の話になり、そのほとんどは函館が好きだという内容だった。そして、函館の好きなところ、函館のイメージを聞くと多くの方が夜景・海鮮料理・五稜郭・温泉と並んで、ノスタルジックな街並み、レトロな建造物、教会群を挙げる。道内の方であろうと本州の方であろうとだ。いわずもがな、それはここ西部地区のこと。函館市民が函館

の説明をするときも、同じだと思う。

つまり、日本人の中にある「函館の原風景は西部地区」なのである。

西部地区の衰退が叫ばれて久しいが、西部地区にはまだまだ可能性がある。チャンスが眠っている。函館に憧れて移住を希望する人は多くいるが、一方で移住しても仕事がないという声をよく聞く。時代背景や新型コロナウイルスをキッカケに日常生活や仕事の考え方、スタイルが大きく変わっている。魅力的な建造物が数多くあるこのエリア。函館市行政と地域が一体となり、空き物件の家賃サポートや開業資金の助成を行い、若者の起業支援を手助けするなど、人が集まる施策が必要不可欠だ。実際、当店の常連さんの中にも、本州から移住されてきた方が多くいる。

そのためにもまずは西部地区の住人が、街の再興を諦めないこと。どうせ観光地だから、市民は来ないから、俺に得はないから、あっちの通りの店は何屋か分からん等と言わないこと。

西部地区は、函館の原風景だ。この事実がある限り、西部地区は生き続ける。

歴史と新文化の融合。この可能性は、西部地区にこそ大きくある。

もし、その端っこを当店が担っているのだとすれば、これほど喜ばしいことはない。函館市民に愛される珈琲店を目指して…

【西部地区のまちぐらし・海と坂と、見えない何か】



函館「荘」プロジェクト 代表 下沢 杏奈

西部地区で3件の「荘」という名前の学生シェアハウスを運営している。この町に暮らすことの醍醐味は、帰り道。私がまだ自転車で西部地区を駆け巡っていた頃の話。行きは急すぎて、息切れするのに、帰りはまるで風になったように、タイヤが回る青柳電停から谷地頭電停の間の坂。道端に書いてあるケンケンパ。ちょっとナイーブな時に全てを流してくれる海。おはようと声をかけてくれる商店街。絶対に函館を嫌いにさせてくれない巴大橋からの景色。学校の周辺だけでは感じられなかった、心の暖かさ。見えない何かがここにはある。語れない何かがここで感じている。20歳の時、函館なんてと、嫌っていた。たまにこの町なんてと、思ってしまうことがある。でも、だけど、どうしても、嫌うことができない。好きだなんて言葉も簡単には言えない。じゃあ、なんでこの町にいるんだろう。それは謎である。だけど私の友達に、その友達の友達に暮らして欲しい、感じて欲しい。海と坂と、見えない何かを。

【西部地区への移住・

何もない？謙遜かな？そんな函館だってええやん！】



NPO法人NPOサポートはこだて 谷口 真貴

まちづくり、人づくり、地域づくりを体験、学びたくて、函館に来ました。そう思うようになったのは、私が神戸で阪神淡路大震災を経験したからです。大学を卒業し、金融機関に勤め、阪神淡路大震災の被災地で仕事をするようになりました。金融機関の仕事とは違う形でまちづくりを追求したくなり、携わり方を模索していました。

私が北海道に来たのは、厚沢部町で地域おこし協力隊員として、活動を始めた2009年です。そこで縁があり、2013年に函館に来ました。今では、まちづくり、市民活動支援、移住支援を仕事として、日々活動しています。

地元の方と話す、「函館には何もない、集まる場所も、遊ぶ場所もない」と、よく聞きます。果たしてそうでしょうか？移住者や移住希望者の相談対応では「函館に住みたい理由、函館で自分の理想の暮らしが実現できるかも？」と、とても前向きなお話を聞きます。この違いは何でしょうか？

私が思う函館は、「人の魅力あふれるまち」です。地元の方と接するととても穏やかで、親切です。それは移住者が一番感じていることだと思います。ですので、移住者がいろんなことにチャレンジでき、そのチャレンジを応援してくれるという好循環が生まれています。移住者が感じていることは、函館のみなさんが作り上げてきた、そのものです。これからもいろんな方との縁を大事にしながら、「住みよいまち=明日の函館」をみなさんと話しながら一緒につくっていきたいです。

【西部地区での起業・

何度でも訪れたい街・住みたい街函館を目指すこと】



函館観光・民泊推進協会 代表理事 高田 鮎子

春夏秋冬

季節ごとに違う顔を出す函館。私自身の民泊の事業の拠点である西部地区には、昔のように賑わって欲しいと願い始め、「西部地区ならではのおもてなしあるまちづくりの場」を再現できたらと考えるようになりました。

なぜならば、西部地区ならではの景観・歴史・風土はもちろん、出逢い・対話・再会を何より大事にしたい。そう考えるように変化してきました。

ただ観光地をめぐるだけではない、函館ならではのアクティビティな街観光や、ゲストの方と一緒に食卓を囲むことや料理体験をしたことで、お互いが笑顔になること。

また、暮らし視点で言えば、もちろんいい事ばかりではなく、各種不便さも感じることもある中、自分たちの暮らしは自分たちでつくるを基本に、市民参加が出来るまちづくりを推進していく、より居心地の良い人間関係こそが、ここ西部地区の魅力。

住んでいて豊かさを感じ、人にも優しくできる。そして仲間と安心して暮らせる街・西部地区を今までにないカタチある行動でつながり・盛り上げ、昨年自分自身が体験したオンラインイベントなども展開しながら、何度でも訪れたい街・住みたい街を目指して、引き続き西部地区の街の魅力を発信して行きます。

【西部地区の暮らし・

西部地区で取り戻した“自分で暮らしを作る実感”】



フリーランスライター 阿部 光平

20年暮らしてきた東京を離れ、故郷の函館へ帰ることにした。住む場所は、西部地区と決めていた。

実家が湯の川方面だった僕にとって、西部地区はほとんど接点のないエリアだった。なんとなく観光地というイメージはあったものの特に興味はなく、そんなことよりも早く都会に出たいと思っていた。

そんな僕が西部地区に興味を持つようになったきっかけは、2015年に『IN&OUT -ハコダテとヒト-』というWEBメディアを立ち上げたことだった。これは「内側と外側の視点から函館のことを考える」をコンセプトにしたメディアで、「地元を離れて暮らす函館出身者」と「別の地域から函館に移住（或いはUターン）してきた人」という2つのカテゴリーのインタビュー記事を発信してきた。その取材で西部地区に暮らしている方々のお話を伺う機会が何度かあり、だんだんと観光地とは別の一面が見えるようになってきたのだ。

日常と隣接している豊かな自然、積み重ねてきた歴史の上に生きてることが実感できる旧市街ならではの景観、そこに意思を持って住んでいる人たちや個性的なお店。都会での消費的な暮らしに楽しさを見出せなくなっていた自分にとって、西部地区は自主的な暮らしの喜びを取り戻せそうなフィールドに思えた。

実際にUターンをしてみて、仕事でも遊びの場面でも、誰かが用意してくれたものを消費するのではなく、自分たちでゼロから積み上げていく楽しさが増えたなど感じている。これからも西部地区を拠点に、自分たちが楽しいと思える暮らしを作っていきたい。

Facebook



株式会社はこだて西部まちづく Re-Design

542 件の「いいね！」・フォロワー557人



お問い合わせ

いいね! 済み

メッセージ

(アドレス)

● <https://www.facebook.com/hwerhakodate/>

I n s t a g r a m

hakodatewestar... [メッセージを送信](#) [フォローする](#) [...](#)

投稿22件 フォロワー136人 フォロー中4人

株式会社はこだて西部まちづく Re-Design
はこだて西部まちづく Re-Designは、
函館西部地区での暮らしや営みを大切に、
ここにしかない歴史や文化を活かしたまちづくりを推進します。
h-we-r.com
フォロワー: tabicoffee、taku.kitayama.98、hakodate_nanae_hokuto_science、他20人

「大町湯気市」ご参加者の皆様へ
「大町湯気市」主催者一同
12/19(日)「大町湯気市」開催中止について
平素大変お世話になっております。
表題の件、本日12/19(日)11時～15時で開催予定としておりました「大町湯気市」につきましては、天候や路面状況等を踏まえ、参加者の方々及び出店者様/主催者側の安全等を勘案し、中止とさせていただきます。
開催を楽しみにして頂いていた方々には大変申し訳ありませんが、何卒ご理解の程宜しくお願い致します。

「大町湯気市」ご参加者の皆様へ
「大町湯気市」主催者一同
12/18(土)「大町湯気市」開催中止について
平素大変お世話になっております。
表題の件、本日12/18(土)16時～20時で開催予定としておりました「大町湯気市」につきましては、悪天候のため、参加者の方々及び出店者様/主催者側の安全等を勘案し、中止とさせていただきます。
尚、明日12/19(日)11時～15時開催を予定)につきましては、天候等を勘案し、追って開催可否を判断させていただきます。
ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解の程宜しくお願い致します。

(アドレス)

● <https://www.instagram.com/hakodatewestareareadesign/>